

[地域コーディネーターの体制]

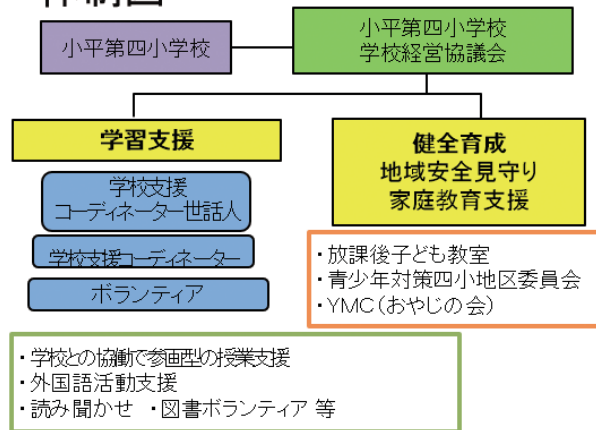
「みんなの笑顔が輝く学校」をめざし、地域と共に子供たちを育成！

東京都小平市／小平市立小平第四小学校学校経営協議会・学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

- 学校経営協議会（学校運営協議会）では、学校経営方針に関する協議を行うだけでなく、「学習支援」「健全育成」のプロジェクトチームとしての協議を行います。
- 学校支援コーディネーター世話人（市の委嘱、各校2名以内。以下世話人）は、学校との協働の中で学習支援（外国語活動、地域参画型授業の計画、講師や人材の発掘確保など）を行います。
- 学校支援コーディネーター（学校長が各校判断で依頼。以下コーディネーター）は、世話人等からの依頼に基づき、ボランティアへの説明や依頼を行います。

体制図



■ 活動の特徴・工夫

- 学校と地域との協働でスムーズに授業等が実施できるよう、世話人はボランティア等と面談を行い、趣旨等の理解を図ったうえで授業支援や学校支援に参加してもらっています。
- 学校経営協議会のプロジェクトの1つとしてスタートした「地域見守り」プロジェクトでは、学区域の6つの商店街と2つの自治会と連携し、地域全体で子供たちを見守る活動を展開しています。コーディネーターは、商店会への依頼をする等、調整しています。
- 教員が大学での研修を受講したことをきっかけとして、地域の教育力による外国語活動を推進するために、近隣の大学等と連携して「話せる英語」を目指して、質の高い授業を実践しています。
- 学校の広報を重視し、世話人・コーディネーターと教員と一緒に内容を考えたホームページや学校経営協議会の議事録などの公開、「四小だより」を自治会を通して配布するなど積極的に広報しています。
- 玉川上水が学校のすぐ南側にあるので1年生から6年生まで自然、歴史、環境などを学年に応じて学習します。そのための地域人材と学校、世話人・コーディネーターの話し合いにより、豊かな授業を展開していきます。
- 地域のお年寄りとの交流の場として「にじいろひろば（※）」を開催し、昔あそびなどの授業支援のコーディネートを行います。
- 学校が立てた授業計画に基づき、授業支援に関わるボランティアの役割を話し合う等、学校、地域をつなぐのが世話人、コーディネーターの重要な役割です。



玉川上水の歴史の授業風景



1年生 昔あそび名人に

※にじいろひろば
世話人が企画・運営し、毎月第1・3木曜日の中休み（20分休み）に、地域の高齢者が学校の教室などで子供たちと昔遊びなどを行います。

■ 立ち上げ当時

- 学校と地域のかかわりは青少年対策活動や商店会のお仕事体験等を通してとてもよい関係にありました。
- 開かれた学校を目指し、学校支援ボランティアの大募集を行ったのが平成15年です。
- その頃にあった学校支援で現在も引き続き活動しているのが「図書ボランティア」、「読み聞かせ」、「安全見守り」、「花いっぱい」、「にじいろひろば」等です。
- それぞれの活動はPTAや放課後子ども教室などの中で根付いていました。
- コミュニティ・スクールとして四小が歩み始めた時をきっかけに、学校経営協議会を中心に学校支援地域本部のイメージが出来上がりました。
- 学習支援体制を整えるため、学校支援コーディネーター世話人は、学校長が推薦し、市が委嘱することとし、学校支援コーディネーターは学校長がそれぞれの活動の中心にいる人に依頼することとなりました。



お仕事体験



にじいろひろば

■ 展開・現在

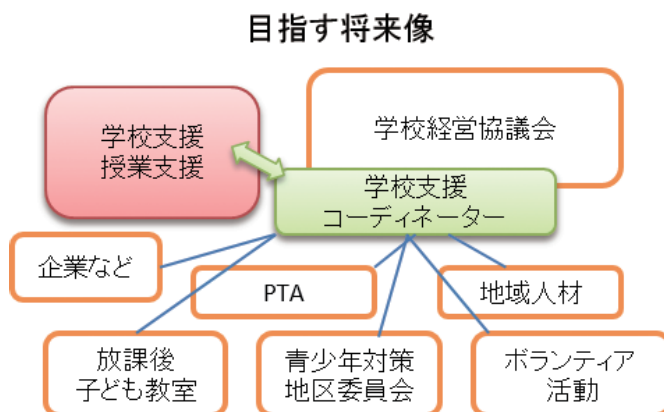
- それまでのボランティア活動をまとめ、新たに学習支援を立ち上げました。学校が目指す授業に地域の力を生かし、学校と学習のねらいや趣旨を共有するため、全教職員と学校経営協議会委員による熟議を行い、より豊かな授業支援が行えるようにしています。
- 子供たちは知り合いの地域の人たちが増えたことで、かかわりが増え、体験を通して表現力が増したと思っています。また、安全面でも成果がみえます。



学校経営協議会の中で全教職員と委員との「熟議」の様子
*学習支援と健全育成などについて

■ 今後の展望・課題

- 学校は子供たちの学習の場であるとともに、よい大人になるためのたくさんのかかわりの場でもあると思います。
より多くの地域の方たちとのかかわりの中で、豊かな心をもって、自分の思いを確かな言葉で伝え合うことができる人になってもらいたいです。
- 四小がめざしている
「みんなの笑顔が輝く学校」
～子どもも、保護者も、教職員も、地域も～
の実現をめざしいろいろなツールを活用し、連携・協働を進めていきたいと思っています。



[統括コーディネーターの配置事例]

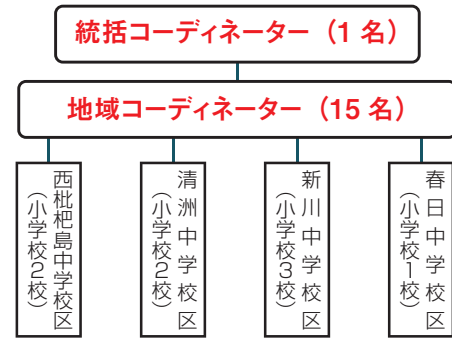
統括コーディネーターを配置し、コーディネーター同士のネットワークを推進

愛知県清須市／^{きよす}清須市学校・家庭・地域連携推進協議会

■ 活動の目的・概要

- 学校支援地域本部事業が、充実するためには、地域コーディネーターが重要です。
- 新たに地域コーディネーターが誕生し、経験を重ねていく過程において、地域コーディネーターをバックアップするために、統括コーディネーターを配置しました。統括コーディネーターは、次のような役割を担っています。
 - ・ 地域コーディネーターのネットワークづくりの支援
 - ・ 地域コーディネーターの負担軽減
 - ・ 学校支援地域本部の効率的な活動体制の構築支援

体制図



(平成 28 年度)

■ 活動の特徴・工夫

- 児童委員として活動していた人材が、^{にしびわしま}西枇杷島中学校区での学校支援地域本部の地域コーディネーターとして経験を積み、学校支援活動を清須市全体の取組に発展させていく段階で、統括コーディネーターとして活動することになり、現在に至っています。
- 統括コーディネーターは、放課後子供教室や、児童館、幼稚園、保育園等と交流し、学校とのパイプ役を果たしながら、市内全体の学校支援地域本部事業の活動を広げていくための方策を立てています。
- 統括コーディネーターは、地域の老人クラブ(寿会) や、子供会、社会福祉協議会等の市内のボランティア団体と交流し、学校支援地域本部事業を理解してもらい、学校支援ボランティアとしての協力をお願いしています。
- 統括コーディネーターは、それぞれの学校区の地域コーディネーターとともに、地域を担う次世代育成のため、中学生が地域の清掃活動や防災訓練等に気軽に、そして積極的にボランティアとして参加できるように、地域や学校に働きかけ、中学生のボランティア参加への体制づくりをサポートしています。
- また、西枇杷島中学校区では、学校を核とした地域づくりを進めるため、子供達の安心・安全な生活について考えるセーフコミュニティ連絡協議会を立ち上げました。様々な関係機関に参加を呼びかけ、地域ぐるみで学校を支える新たなつながりを築いています。



寿会の方々による生活科の学習支援「野菜の先生」



幼稚園の運動会時における中学生ボランティア活動支援

『にしびセーフコミュニティ(NSC)連絡協議会メンバー』

- 中学校校長・教頭・教務主任・校務主任
- PTA役員 ○学校評議員 ○生徒会役員
- 地域コーディネーター ○民生主任児童委員
- 人権擁護委員 ○保護司 ○更生保護女性会

■ 立ち上げ当時

都市化により、地域のつながりの希薄化が懸念される中、西枇杷島中学校区では、平成20年に、新たな絆づくりを模索するため、学校関係者・地域の有識者等14名による協議会を立ち上げました。協議会において、10年20年後にも続いていくような、無理のない持続可能な活動の推進を図ることを決めました。

2年目に、協議会で地域コーディネーターの必要性について話し合い、協議会メンバーの中から、2名（PTA会長、主任児童委員）を地域コーディネーターに選出しました。3年目は、地域コーディネーターの企画により、「読書ボランティア養成講座」を開催し、のべ81名が参加しました。

『にしび地域教育協議会メンバー』

- 校区内小中学校校長・PTA会長
- 校区内小学校教頭
- 民生委員連絡協議会会長
- 西枇杷島商工会会長（社会教育委員）
- にしび山車保存会会長
- NPO法人下小田井防犯協会（寿会会長）
- 人権擁護委員
- 主任児童委員

『スローガン』

いつでも・どこでも・だれでも
⇒
できる人が、できることを、たのしく

■ 展開・現在

○4年目から、統括コーディネーターが、市内の学校支援地域本部の未実施中学校区において、地域コーディネーターの発掘や育成、事業展開の支援を行い、市全体の取り組みへと広げました。

○清須市では、読書活動推進の支援に取り組んでおり、平成23年に開館した清須市立図書館と協働し、定期的に読書ボランティア養成講座を開催しています。30歳代から70歳代の幅広い年齢層の読書ボランティアの方々が、読み聞かせや図書修繕等、各学校で活躍しています。

○また、小中学生を対象した読書ボランティア養成講座も開催し、春休みや夏休みには、児童館や図書館でおはなし会を開催しています。

○今春高校を卒業した子や大学生になった卒業生が、小学校の朝の読み聞かせに来てくれるようになりました。放課後子供教室のイベントに参加したり、小学生対象の講座にアシスタントとして参加してくれる中学生ボランティアも育っています。



自作のペープサートを上演する卒業生

『学校支援ボランティア』登録人数

1年目	130名
2年目	563名
3年目	1,180名
7年目	1,830名

■ 今後の展望・課題

○ボランティア同士の交流を図るため、市内全12校の読書ボランティアに声をかけ、平成28年度には、ボランティア同士のネットワーク会議を開催する予定です。

○また、防災教育の一環として、学校の防災訓練に地域の方々が参加していましたが、今後は、地域の防災訓練に、中学生にもボランティアとして参加してもらう予定です。平成27年度、2地区において先行して行い、今後は、地域と学校が連携・協働し、さらに拡大していく予定です。大人と子供が、互いに交流し、学ぶ場として発展していきます。



地域の防災訓練に参加する中学生の様子

連絡先：愛知県清須市教育委員会生涯学習課 052-409-6471 shogaigakushu@city.kiyosu.lg.jp

[社会教育施設（公民館）との連携事例]

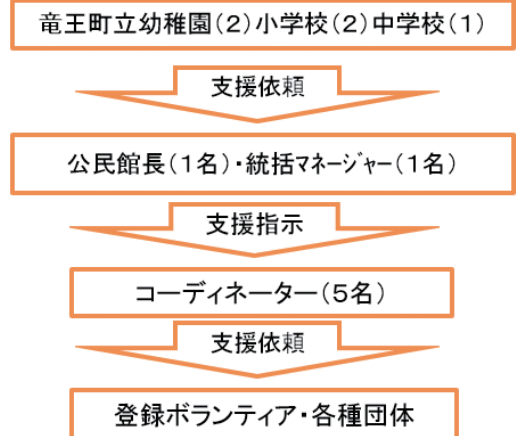
社会教育施設（公民館）と連携した学校支援地域本部～通称：学校応援団～

滋賀県蒲生郡 竜王町がもうぐんりゅうおうちょう／竜王町学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

- ひとつづくりまちづくりの拠点である公民館（町内に1館）の中に、学校支援地域本部を設置し、公民館長、統括マネージャー1名及びコーディネーター5名体制で、各学校単位でなく、町全域（町内5校園）の学習支援をコーディネートしています。
- 支援の対象を町全域としたことで、支援分野が広範囲におよぶことから、地域ボランティアの人材確保にスケールメリットが生きることになります。

体制図



■ 活動の特徴・工夫

- 円滑な学校応援団（学校支援地域本部）活動を図るため、平成23年度に、町内全域の地域ボランティアと学校・園をつなぐパイプ役として、統括マネージャーを配置しました。
- 統括マネージャーとコーディネーターが、月に1～2回、学校・園からの依頼や要望の検討をしたり、意見交換等を行う場として、学校応援団定例会を設けています。
- 統括マネージャーとコーディネーターが支援時の様子を見学し、地域ボランティアからの意見を聞くようにしています。
- 社会教育主事の資格を持った公民館長がパイプ役となり、地域の多様な経験や技能を持つ人材や公民館利用団体等と連携した学習支援を実施しています。公民館で学校支援にもつながる分野の講座を開催し、地域ボランティアの人材確保と人材育成を図っています。平成27年度は、『水墨画』の自主活動グループが、竜王中学校1年生の美術の授業で水墨画の指導補助を行いました。
- 地域から学校への支援にとどまらず、地域ボランティアの方々を幼稚園や小学校の感謝祭（子供たちが田植えや稲刈りを行い収穫したお米を使ったイベント）や収穫祭（ボランティアの指導により子供たちが育てた大根を使ったイベント）に招待するなど、「学校から地域への交流活動」を行っています。



学校応援団定例会の様子



水墨画グループによる学習支援
（竜王中学校1年生・美術）

■ 立ち上げ当時

○竜王町では、平成22年10月から文部科学省の支援を受け「竜王町学校支援地域本部事業」を立ち上げました。これまでも学校では、ゲストティーチャーとして地域の方々の協力を得ながら学校支援を進めてきましたが、この事業では、「統括マネージャー」と「コーディネーター」を配置することで、多様な経験、知識、特技などを持った地域の方々と学校・園が支援して欲しいことを結びつけることができ、今まで以上に、地域の方々が学校・園で活躍できるようになりました。初年度には、竜王小学校で、図書ボランティアの会議を、生涯学習課課長、校長、コーディネーター、地域ボランティアで行いました。



竜王小学校・図書ボランティア会議

■ 展開・現在

○立ち上げ当初は、週に一度、統括マネージャーが小学校職員室に駐在をして、どのような支援ができるか等の打ち合わせをしていましたが、現在は学校・園からFAXや電話で支援の依頼があり、必要に応じて打ち合わせを行っています。

○近年は、小・中学校の家庭科の授業支援や、小学校・幼稚園での講演会や参観日等の託児支援の依頼が多く、地域ボランティアにお願いしています。

○新たに地域ボランティアを募集するだけでなく、口コミで地域ボランティアが増えています。託児支援では、今まで幼児がいるため行事等に参加できなかった保護者から喜びの声が届いています。



竜王西小学校・託児の様子

■ 今後の展望・課題

○地域ボランティアの高齢化に伴い、次の世代へ移行することと、支援依頼が同一の人に集中しないように、広く地域ボランティアの人材確保をしたいと思います。年2回、全戸配付している『応援団だより』で支援の様子を伝えたり、地域ボランティアの募集を行っています。

○平成26年に、竜王小学校のコミュニティ・スクールが立ち上がり、その母体として学校応援団の動きは非常に大きい存在です。今後も『開かれた学校、地域の子は地域で育てよう』を合言葉に、地域と学校が連携・協働し、学校応援団の活動を推進して行きたいと考えています。



応援団だより

[最初の第一歩として取り組みやすい事例]

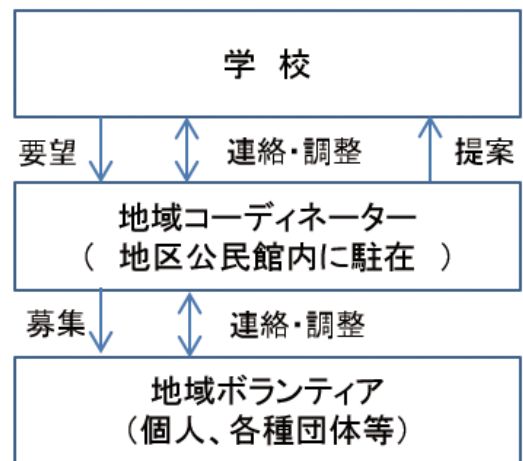
学校・家庭・地域が手を取り合って、地域の宝である子供を育てる

愛媛県伊方町／三崎中学校区学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

- 「人づくりがまちづくりの基本」という考えのもと、地域の人材を活かし、地域全体で学校を支援できる体制づくりを行っています。
- 中学校区内の小中学校（中学校1校、小学校1校）のニーズに合わせた活動を実施しています。
- 主な活動内容は、
 - ・登下校の見守り、安全指導
 - ・本の読み聞かせ ・花木の剪定、害虫駆除
 - ・学校行事の支援 ・地域学習の講師
 - ・料理教室の講師、補助等の学習支援 等です。

体制図

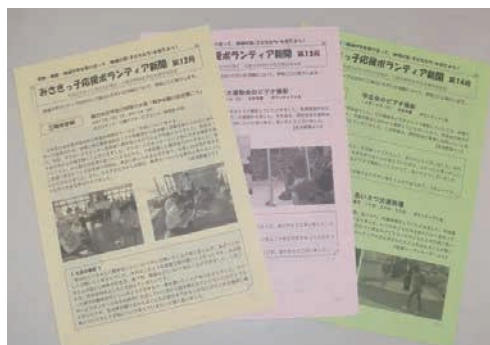


■ 活動の特徴・工夫

- 教員経験のあるコーディネーターが公民館に駐在し、公民館と連携することで地域の豊富な情報を得て、学校現場にマッチしたきめ細かい対応をしています。
- 町の主幹産業である漁業についての職業講話や、地域に伝わる織物（さきおり）の体験、郷土料理の「さつま」の調理実習等、地域特有の産業や伝統文化の体験等、地域のよさを伝える活動に力を入れています。
- ボランティアを募集するために、広報紙の発行だけでなく、公民館行事にコーディネーターも参加して情報収集やボランティア参加の呼びかけを行うなど、公民館と連携して関係団体に協力の呼びかけを行っており、児童・生徒数約130人に対して、約160人の方にボランティアとして参画していただいています。



地域に伝わる織物「さきおり」体験



ボランティアの活動を広報する、
「みさきっこ応援ボランティア新聞」(年3回発行)



昔の遊びや学校生活、地域の生活などを伝える

■ 立ち上げ当時

○まちの将来を担う子供達のために地域全体で地域の人材を学校で活かせる支援体制の構築を図ることを目的に、学校長、PTA、公民館関係者等による実行委員会を立ち上げました。

○立ち上げ当初は手探りの状態で、ボランティアの募集方法、学校への派遣方法、ボランティアの活動内容等ではいろいろと問題が生じていましたが、協議を重ね、コーディネーターが中に入り、入念に打ち合わせを行うことで、スムーズな活動ができるようになりました。

現在は

- ・学校からボランティアへの依頼や連絡は、基本的にコーディネーターが行う。
 - ・必要に応じて、学校・コーディネーター・ボランティアの3者で打合せを行う。
 - ・授業（事業）当日もコーディネーターが立ち会う。
- と、常にコーディネーターが仲介役として同席しています。



学校関係者、公民館等関係者等による
実行委員会の様子（立ち上げ当時の様子）

■ 展開・現在

○学校の支援については、公民館の協力を得ながらボランティアを確保でき、学校からの要望に対しての人材確保がスムーズにできるようになっています。

○参加したボランティアの方からは、「普段は子供たちと関わるのがすくないので一緒に活動できてよかった」という旨の意見が多く聞かれます。



郷土料理「さつま」作り体験
※さつま…魚のすり身を使った郷土の伝統料理

■ 今後の展望・課題

○ここ3年間で統合が進み、中学校区の小学校が3校から1校に減ったことで地域と学校との関わりや地域の活力が失われつつあるため、これまで以上に広く多くの方々に関わっていただけるよう方法を検討しています。

○この事業を通じて実績を積み上げていくことで、学校と地域のつながりを密にして、子供たちの教育環境の向上、地域の活性化に繋がるよう、連携・協働を進めていきたいと考えています。

○事業を行っていく上では、ボランティアの交渉や打ち合わせ等はコーディネーターが行うなど、学校関係者の負担軽減になるよう心がけています。



全中学生と小学6年生が、地域の高齢者からしめ縄づくり等を学ぶ。
(年1回・平日開催)